

各関係機関団体の長 } 殿  
各病虫害防除員 }

福岡県病虫害防除所長

平成23年度病虫害発生予報第2号（5月）について

このことについて、病虫害発生予報第2号を発表したので送付します。

## 予報第2号

## なし赤星病の防除を徹底しましょう。

本年は3月～4月の気温が例年より低く、降水量も少ないため、ビャクシン上の赤星病冬孢子堆からの小生子の飛散時期が遅く、5月の始め頃まで続くと考えられます。

冬孢子堆の成熟状況と週間天気予報による降雨日の把握によって、適期防除に努めて下さい。



ビャクシン葉上の冬孢子堆



なし葉上の病斑

向こう1か月間の主な病虫害の発生動向は、次のように予想されます。

作物名	病虫害名	発生量 (現況)	発生量 (予想)	
		平年比	平年比	前年比
かんきつ	そうか病	並	並	並
なし	黒星病	やや少	やや少	やや少
かき	炭そ病 フジコナカイガラムシ	一 少	並 やや少	並 やや少
果樹共通	カメムシ類	一	一 (平成20年並)	やや少
茶	カンザワハダニ チャノミドリヒメヨコバイ チャノキイロアザミウマ	並 並 並	並 並 並	多 並 多

## <予想される向こう1か月の天候>

期間の前半は気温が低く、特に1週目はかなり低いでしょう。

天気は、数日の周期で変わるでしょう。平年に比べ晴れの日が多い見込みです。

向こう1か月の気温は平年並でしょう。降水量は平年並か少なく、日照時間は平年並か多いでしょう。

週別の気温は、1週目は平年並または低く、2週目は平年並または高いでしょう。3週目以降は平年並でしょう。

向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率 (%)

要素	低い (少ない)	平年並	高い (多い)
気温	30	40	30
降水量	40	40	20
日照時間	20	40	40

(福岡管区気象台 平成23年4月22日発表抜粋)

## 作物別発生予報

注：予報の根拠の末尾の（ ）書きは、（+）は発生を助長する要因、（-）は発生を抑制する要因、（±）は発生の助長及び抑制に影響の少ない要因であることを示す。

### 【果樹】

#### 1 かんきつそうか病

##### (1) 予報の内容

発生量：平年・前年並

##### (2) 予報の根拠

ア 4月5半旬調査の結果、発生量は平年並であった（±）。

発病葉率 0.1%（平年 0.2%、前年 0.6%）

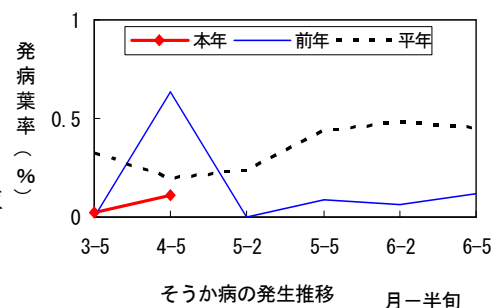
発生ほ場率 22.2%（平年 13.3%、前年 16.7%）

イ 向こう1か月の気象予報は、気温は平年並、降水量は平年並か少ないとされている（±）。

##### (3) 防除上の注意

ア 落花直後に灰色かび病、黒点病との同時防除を実施する。

イ 罹病葉は見つけ次第除去する。



#### 2 なし黒星病

##### (1) 予報の内容

発生量：平年・前年よりやや少

##### (2) 予報の根拠

ア 4月5半旬調査の結果、発生量は平年よりやや少なかった（-）。

発病葉率 0%（平年 0.1%、前年 0.1%）

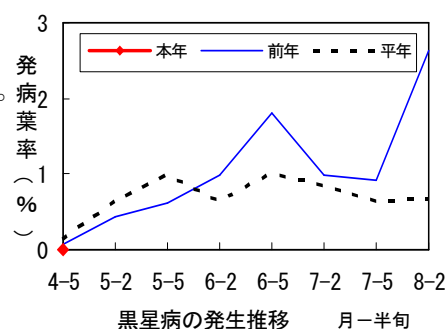
発生ほ場率 0%（平年 11.2%、前年 8.3%）

イ 向こう1か月の気象予報は、気温は平年並み、降水量は平年並か少ないとされている（±）。

##### (3) 防除上の注意

ア 罹病葉や罹病果実は、見つけ次第除去する。

イ 薬剤感受性の低下を避けるため、同一系統薬剤の連用は避ける。



### 3 かき炭そ病

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年並

(2) 予報の根拠

ア 前年10月2半旬調査の結果、発生量は平年並であった(±)。

発病果率 1.3% (平年 1.9%)

発生ほ場率 46.2% (平年 55.3%)

イ 向こう1か月の気象予報は、気温は平年並、降水量は平年並か少ないとされている(±)。

(3) 防除上の注意

ア 罹病枝は伝染源となるので見つけ次第除去する。

イ 多発園では、防除効果の高い薬剤を必ず散布する。

### 4 かきのフジコナカイガラムシ

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年よりやや少

(2) 予報の根拠

ア 4月5半旬調査の結果、発生量は平年より少なかった(-)。

寄生枝率 0.8% (平年 3.4%、前年 3.7%)

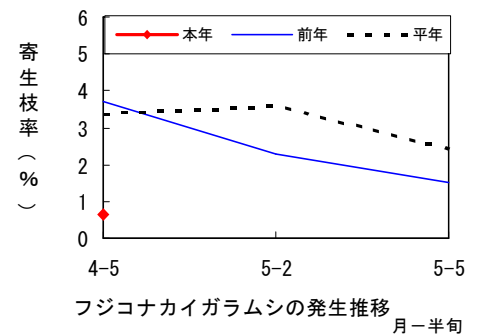
発生ほ場率 30.0% (平年 57.0%、前年 69.2%)

イ 向こう1か月の気象予報は、気温は平年並、降水量は平年並か少ないとされている(±)。

(3) 防除上の注意

ア 多発園では、天敵の影響が比較的少ない薬剤で防除する。

イ 開花前の防除は、ミツバチに影響の少ない薬剤を散布する。



### 5 果樹共通のカメムシ類

(1) 予報の内容

発生量：前年よりやや少、平成20年並

(2) 予報の根拠

ア チャバネアオカメムシの1㎡当たりの越冬量は、平均0.7頭(前年2.0頭、平成20年0.5頭)で、前年よりやや少なかった(-)。

イ 向こう1か月の気象予報は、気温は平年並、降水量は平年並か少ないとされている(±)。

(3) 防除上の注意

ア カメムシ類は夜温が高くなると活動が活発になるので、気温の推移や地域の予察灯の誘殺状況を確認し、園への飛来状況に注意する。

イ ウメ、モモ、スモモ、ナシ、カンキツ等では、園内の発生状況の把握に努め、発生に応じて防除を行う。

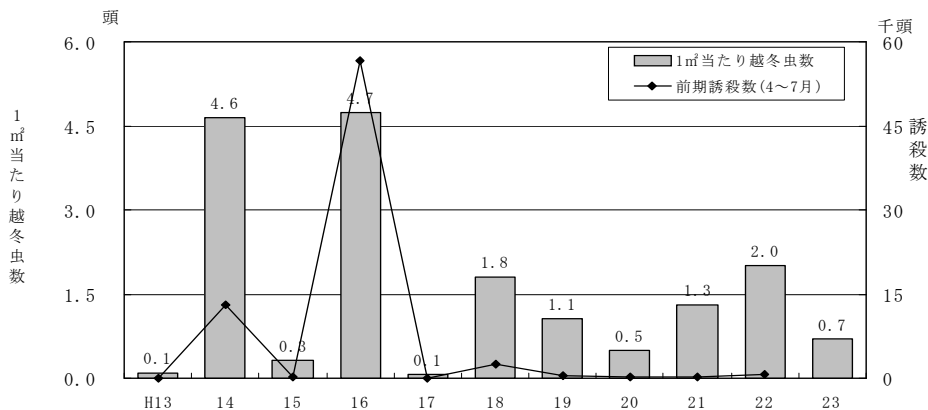


図 チャバネアオカメムシの1㎡当たり越冬虫数及び県下6か所予察灯の前期(4~7月)平均誘殺数の年次推移

【果樹・その他の病害虫】

作物名 病害虫名	発生量 (現況)	発生量 (予想)		防除上注意すべき事項等
	平年比	平年比	前年比	
かんきつ アブラムシ類	—	並	並	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ミカンハモグリガやハマキムシ類との同時防除を行う。</li> <li>・発生初期に防除する。</li> </ul>
ミカンハダニ	少	少	やや少	
なし アブラムシ類	並	並	並	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発生初期に防除する。</li> </ul>
ぶどう 黒とう病	—	並	並	<ul style="list-style-type: none"> <li>・罹病葉や罹病新梢は伝染源となるので、見つけ次第除去、焼却する。</li> <li>・多発園では、ジチアノン水和剤や有機銅水和剤を必ず散布する。</li> </ul>

【野菜・その他の病害虫】

作物名 病害虫名	発生量 (現況)	発生量 (予想)		防除上注意すべき事項等
	平年比	平年比	前年比	
アスパラガス 斑点性病害	—	並	並	<ul style="list-style-type: none"> <li>・擬葉展開後に予防散布を行う。</li> <li>・ハウスのつま面を開放し、湿度の低下を図る。</li> </ul>
アザミウマ類	やや少	並	並	

【茶】

1 カンザワハダニ

(1) 予報の内容

発生量：平年並、前年より多

(2) 予報の根拠

ア 4月5半旬調査の結果、発生量は平年並であった(±)。

寄生葉率 2.7% (平年 2.8%、前年 3.9%)

50葉当たり虫数 5.9頭 (平年 8.0頭、前年 11.9頭)

発生ほ場率 64.7% (平年 43.1%、前年 46.7%)

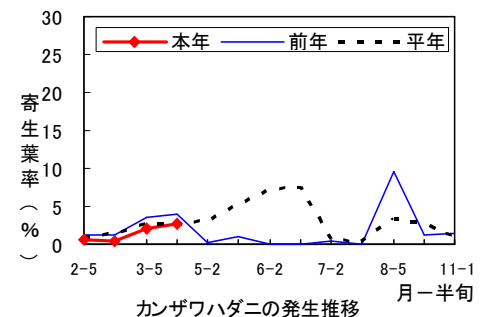
イ 向こう1か月の気象予報では、気温は平年並で、降水量は平年並か少ないとされている(+)

(3) 防除上の注意

ア 一部多発している茶園も見られることから、発生状況を

よく観察し、寄生葉率が2%以上の茶園では、摘採後、速やかに防除を行う。

イ 薬剤感受性低下を避けるため、同一系統薬剤の連続散布を避け、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。



## 2 チャノミドリヒメヨコバイ

### (1) 予報の内容

発生量：平年・前年並

### (2) 予報の根拠

ア 4月5半旬調査の結果、発生量は平年並であった(±)。

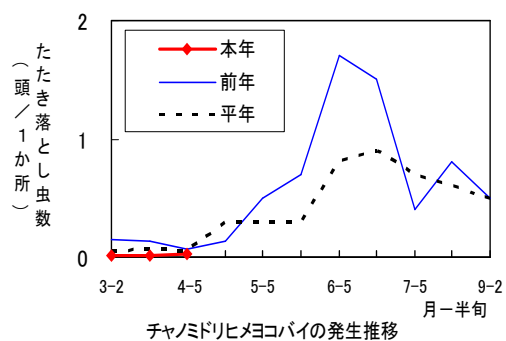
たたき落とし虫数 0.03頭(平年 0.06頭、前年 0.07頭)

発生ほ場率 11.8%(平年 14.3%、前年 13.3%)

イ 向こう1か月の気象予報では、気温は平年並で、降水量は平年並か少ないとされている(±)。

### (3) 防除上の注意

一番茶摘採後、または二番茶の萌芽から開葉期を重点に防除する。



## 3 チャノキイロアザミウマ

### (1) 予報の内容

発生量：平年並、前年より多

### (2) 予報の根拠

ア 4月5半旬調査の結果、発生量は平年並であった(±)。

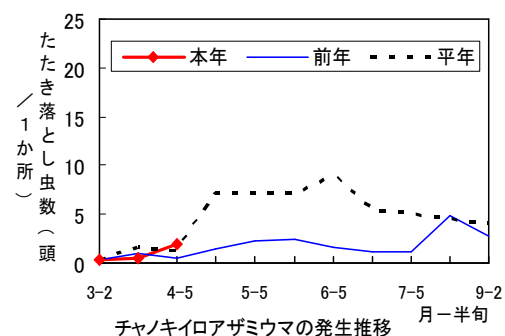
たたき落とし虫数 2.0頭(平年 1.3頭、前年 0.5頭)

発生ほ場率 64.7%(平年 61.8%、前年 86.7%)

イ 向こう1か月の気象予報では、気温は平年並で、降水量は平年並か少ないとされている(±)。

### (3) 防除上の注意

一番茶摘採後、または二番茶の萌芽から開葉期を重点に防除する。



## 農薬の安全・適正使用、飛散防止対策の徹底を！

福岡県では、農薬の安全かつ適正な使用及び保管管理、使用現場における周辺への配慮を周知徹底するとともに、農薬による事故防止を目的として、安全使用講習会の開催や啓発チラシの配布等を関係機関、団体と一体となって取り組んでいます。

使用者の安全はもちろん、人畜・隣接作物・河川等への配慮について、ご指導をお願いします。

### 1 農薬適正使用の徹底

○適用作物、使用量や濃度、使用時期、総使用回数などの※ラベルをよく確認し、使用基準を遵守する。

※農薬の種類によっては、登録の内容がメーカーによって異なるので、ラベルをよく確認する。

(例：スミチオン水和剤40は、メーカーによって適用作物名や適用病害虫名が異なる)

※適用作物を誤認して農薬を使用しないよう注意すること。

(例：① しゅんぎく と 食用ぎく、② トマト と ミニトマト、③ さといも と ずいき、

④ どうもろこし と ヤングコーン 等)。

### 2 飛散防止対策の徹底

○風向、散布方向、散布時間、散布圧などに留意する。

○飛散しにくい農薬（剤型）や飛散が少ないドリフトレスノズルを使用する。

○散布ほ場周辺の収穫前の作物には十分注意する。

### 3 保護具の着用

○農薬の散布時には、ラベルの注意・警告マークをよく確認し、マスク、保護メガネ、ゴム手袋等を着用する。

### 4 農薬の散布後は、必ず散布器具を洗浄

○噴霧器、薬液タンク、ホースなどの散布器具を十分に洗浄する。

### 5 防除履歴の記帳

○薬剤散布が終わったら、作物名、ほ場の場所、使用年月日、薬剤名、使用濃度、使用量等を正確に記帳する。

### 6 空容器の処分

○空容器は、産業廃棄物処理業者に委託するなど、適切な処分を行う。

また、野焼きは法令で禁止されているので行わない。

病害虫防除所では、病害虫の発生状況と防除について  
ホームページでお知らせしています。

ホームページ <http://www.jppn.ne.jp/fukuoka>  
電子メール [kfok0301@sp.jppn.ne.jp](mailto:kfok0301@sp.jppn.ne.jp)